

平成28年度 自動車専用道路アイランドシティ線環境影響評価に係る 環境モニタリング有識者委員会 議事録

日 時：平成28年7月13日（水） 10:00～11:40

場 所：エルガーラホール 7階中ホール1

出席委員：藤本一壽委員，小島治幸委員，田中綾子委員，柳美代子委員，江口和洋委員，
福原達人委員，久保祥三委員

事務局出席者：国土交通省九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所

平田副所長，松屋事業計画課長ほか

福岡市道路下水道局

竹廣計画部長，福本高速道路推進課長ほか

福岡北九州高速道路公社福岡事務所

伊藤所長，政次設計調整課長，瓜生沿道対策課長，久良木工事課長ほか

委託業者：パシフィックコンサルタンツ株式会社

議事概要

（1）会長・副会長の選出

要綱に基づき，互選により藤本委員が会長に選出，藤本会長の指名により小島委員が副会長に選出された。

（2）環境モニタリング調査報告書（案）について

【事務局】①全体調査計画書（案），②平成28・29年度の調査計画書（案）及び③福岡県レッドデータブック改訂に伴う追加重要種に係る環境影響評価報告書（案）について，一括して説明。

①全体調査計画書（案）

【委員】臨海区間から工事が開始されるが，複数の工事区間において同時に施工されることはあるのか。

【事務局】同時に工事をすることはある。環境影響評価時においては，工事期間の重なりを考慮して予測を行っており，基準等と整合が図られていると影響評価の結果を得ている。

【委員】工事も，それぞれの区間で状況が異なる。特に，臨海区間においては，散水等の工事の排水がそのまま海に流れれば，水の濁り等の影響が出るおそれがあるので，調査地点を変更したほうがいいのか。

【事務局】散水等の工事に用いた排水は，基本的には簡易的な処理をして，下水に流す予定である。今回の水質調査の前提は，海域への影響が一番大きい海底の掘削を想定したものである。

【委員】了解。

【委員】 I-13 ページの全体調査計画書（案）と II-2 ページの平成 28・29 年度の調査計画書（案）とで、【環境モニタリング調査とは】の書きぶりが異なる。全体調査計画書（案）にも、事後調査については中止をすることを記述したほうがよい。

【事務局】 法に基づく事後調査については、今まで実施した事前調査の一部の報告や計画等も踏まえて、今後、国に報告する必要があるため、全体調査計画書（案）には調査対象から削除する旨を記載していない。

【委員】 事後調査の記述は残しておき、マツバランが枯死したため、平成 28 年度以降は調査を行わないことを記述してはどうか。

【事務局】 全体調査計画書（案）もマツバランの調査を中止したことを記述することについて検討する。

【会長】 よろしいか。

【委員】 了解。

【会長】 【環境モニタリング調査とは】の部分だけ、四角で囲っているのは何か意味があるのか。

【事務局】 法に基づく調査であることを強調するためだと考えている。

【会長】 全体調査計画書（案）と平成 28・29 年度の調査計画書（案）については、【環境モニタリング調査とは】の書きぶりの整合性を検討し修正すること。

②平成 28 年度・平成 29 年度の調査計画書（案）

【委員】 II-6 ページ、水質調査の調査地点について、福岡市では海域において複数の場所を調査していると思うので、1 番影響が出やすい地点において、変化を受けたかどうかを確認することが重要である。特に S-3 の近くについては、湾域の中でどこを選ぶかを整理したほうがよい。

【事務局】 今回の調査地点については、福岡市の他の部局で実際にモニタリング調査を過去に実施している。今回の計画は、年に 4 回の調査であり、期間も限られるため、過去のデータも活用しなければ、評価しにくい部分もある。今後、S-3 に限らずその他の地点においても、状況を確認して過去のデータを活用できればと考えている。

【会長】 II-6 ページの S-1, S-2, S-3 は固定ではなくて、状況を見ながら少し変わる可能性もあるということか。

【事務局】 過去のデータを確認したが、この近くでは他にデータを取り続けている地点はない。S-3 については、継続的なデータがあるためアセス時に S-3 を選定している経緯があり、今回もデータ収集の継続性も踏まえて S-3 を設定した。

【会長】 S-3 は、過去のデータを見ながら選んだ調査地点であるということによいか。

【事務局】 そうである。今後、他により適切な場所があるということがわかれば、委員に相談させていただきたい。

【会長】 よろしいか。

【委員】了解。

【委員】S-1は航路・泊地であるため、水深が深い測定できるのか。

【事務局】測定は可能であるが、他にもっとよい地点があるかもしれない。

【委員】重要種の生息環境を確認するというのであれば、浅海域で調査したほうがよいのではないか。

【事務局】指摘を踏まえ、再度検討し、必要があれば浅海域のほうに変更する。

【委員】泊地部分も1点は調べておいたほうがよい。地点数を多く増やせないと思うが、泊地の調査地点を浅海域に移すということか。

【委員】泊地の部分でよいと思う。泊地であれば水深が7メートル程度で、それほど深くはないと思う。実際、航路として使っている部分でそうした測定が安全にできるのかが最初の疑問であった。極端に深い底層を測定しても、工事の影響が及びにくいと思うので、できるだけ浅いところで測ったほうがよいのではないか。

【事務局】水質の調査地点であるが、基本的には、表層と底層で、深い場合は間の層も測定することを想定している。現行のS-1のままのほうがいいのか、工事を行う場所の近くに寄せたほうがいいのか、委託業者からのコメントをお願いする。

【委託業者】今のところ、モニタリング調査では、環境影響評価との比較ということが念頭にありS-1としているが、浅海域での調査に変更したほうがよいかもしれないので、工事の状況等を見ながら判断させていただきたい。調査地点等について変更する際は、相談させていただきたい。

【会長】よろしいか。

【委員】了解。

【事務局】調査地点については、意見を踏まえて、基本的な地点を記述することとし、注釈のような形で工事の状況等によって調整するといった記載を追加したい。

【会長】それでよい。

【委員】一番難しいのがS-2であると思う。橋脚の近辺であり、工事のときには、まず鋼管矢板を設置して、その周りにシートプロテクションを設置する。S-2がシートプロテクションの中になるのか、あるいは外になるのかで随分と異なると思うので、しっかりと決めておいたほうがよい。

【事務局】シートプロテクションの外側を想定している。

【委員】この調査の目的の一つは、環境影響評価で予測した結果と、実際に起こっている現象が合っているかどうかを確認することである。濁りの予測の一番難しいところは、発生源の濃度をどうするかである。発生源というのは、まさにシートプロテクションの中で一番濃度が高く、そこから移流拡散していくため、私はむしろシートプロテクションの中を測定し、その値が予測の計算で使った入力データと同じかどうかを確認する必要があると思う。

【事務局】環境影響評価の時は、シートプロテクションの外を想定して予測している。除

去率が 50%だったと思う。

【会長】環境影響評価というのは、現象がどのように起きているかを検証することが目的ではなく、実際に水がどの程度汚れたのか、汚れないための環境保全策が効果を上げているかどうかをチェックすることが目的だと思う。物理的な現象について、プロテクションの中の濃度を踏まえた上で、様々な予測計算手法や実験によって正しいかどうかを追いかけることは、学問的・技術的には大事なことであるが、ここでの目的はいかに水を汚さないかということではないか。

【委員】予測を行ったときの計算と実際に工事をしているときの状況とがどの程度合っているかを確認しておくことが必要である。予測計算のやり方が合っていたかどうかを確認するには、発生源の濃度を知る必要がある。

【事務局】プラスアルファで発生源を測定するという考え方も検討したいと思う。委託業者から何かあるか。

【委託業者】原単位の把握が重要ではないかという委員の指摘はそのとおりと思う。ただ、工事との絡みがあるため、その場所で採水ができるかどうかは工事業者に確認が必要である。その点を踏まえて、調整できれば調査をしてもよいと思う。

【委員】生物の視点から見ると、工事でどれだけ汚れて、影響が出そうかということが重要である。会長が言われるように、周辺が工事によってどれだけ汚れたか、それが最初に予測したよりもかなり汚れていたら対策をするために事後調査をするということだと思う。やはり、プロテクションの中を調べるよりも、周辺の水質がどれだけ汚れているかを調べるのが重要ではないかと思う。

【事務局】基本的なモニタリングの調査ポイントは膜の外として、事業者として把握しておくべき事項として、内側についても可能なタイミングを見計らいながら調査を検討したいと考えている。

【委員】可能であればお願いしたい。

【会長】整理すると、資料に示されている S-1, S-2, S-3 の 3 点は調査する。さらに、委員の指摘も大事なことだと思うため、シートプロテクションの内側の発生源のチェックも可能であれば、検討するというところでよろしいか。S-1, S-2, S-3 の調査地点については以上でよろしいか。II について、ほかに何か意見はないか。

【委員】環境配慮チェックシートの「建設発生土の処理状況」について、建設発生土がどこに運搬されるのかが気になる。例えば、採石場跡地への埋め戻しとあるが、浚渫土砂などを残土という形で山間部に持っていった後に、地下水の中の塩類濃度が上がったという問題も結構ある。どこで、どのように処理したかについて、4 項目程度を設定して、簡単に丸をつける仕様にしてはどうか。有効利用という観点で捉えるといい方向に見えるが、いろいろな問題も起こってくるため、そこも踏まえてチェックしてほしい。例えば、使える材料は利用するが、工事に利用できないものは埋め戻し材に持っていく。そのときの土の状況による。現在の備考欄では狭くて記入することができない。

【会長】よろしいか。検討いただきたい。

【委員】資源化施設に持って行く分はよいが、残土の場合、自然環境に持って行くのであれば、後々の環境保全のことを考える必要がある。

【事務局】配慮チェックシートについては、使っていく中で、いろいろと改善するところも出てくると思っている。今後もお気づきの点についてはご意見をいただき、それを反映して改善していきたい。

【会長】実施しながらチェックシートを改善していくことも含めて、いろいろとよい方向に持って行ってほしい。

③福岡県レッドデータブック改訂に伴う追加重要種に係る環境影響評価報告書（案）

【会長】環境影響評価を実施した時点ではリストアップされていなかった種が、レッドデータブックの見直しによって重要種に選定され、それらについて影響を評価したところ、結果としては大丈夫ではないかという結論になっている。追加された種は、1カ所にとどまるような種ではないので、問題ないと思っている。

【委員】私は底生生物が専門ではないが、アナハゼもゴカイも、レッドデータブックに載っているが、この地域には結構数が多いと思う。ハゼについては、移動性もあり、生息場所は、礫のすき間等のため、直接に工事が影響する場所は、橋脚をつくる時だと思うが、今回の工事でそれほど影響するとは思えないので、この判断で妥当ではないか。

【会長】調査報告書（案）全体について、了承が必要ということである。

全体調査計画書（案）のⅠ-13ページについては、平成28・29年度の調査計画書（案）のⅡ-2ページと整合させて事務局で修正案を検討することとし、修正内容の確認は会長に一任とさせてもらってよろしいか。

【全委員】了解。

【委員】Ⅱの平成28、29年度の調査計画書（案）については、もう少し丁寧な説明が入ったほうがよいと思う。直近で、施工計画もかなり具体的に記述できるのではないか。平成28、29年度は、我々の任期の中で示す内容であり、私たちはこの部分を精査しないといけないと思う。

【会長】例えば、具体的にイメージを教えてください。

【委員】施工機械の話が先ほどあったが、低騒音の機械を用いる等の具体的な内容が分かっているならば入れたほうがよい。

【委員】この調査報告書（案）は、Ⅰが全体調査計画書で、Ⅱが平成28・29年度の調査計画書、Ⅲが追加重要種についてという構成になっており、工事のことについては、Ⅰに示されていると認識している。

【事務局】平成28・29年度の調査計画書は、委員指摘のとおり現段階でわかっている具体的な施工計画を記載すべきと思っているが、現段階で発注していない工事が多いため、そ

の点を具体的に記載することができなかった。次回以降は、できるだけそうした工事の情報を次年度計画の中に入れながら、ご意見をいただきたいと考えている。

【会長】決まっていない部分が結構多いということだと思う。どこにも載っていないというわけではなく、Iのところ載っている。

【委員】了解。

それでは、調査報告書（案）全体の修正については、私に一任していただくということをお願いしたい。

（3）その他

【事務局】委員会の開催時期について、今年度の調査結果を報告するとともに、平成30年度の計画を立てて予算に反映する必要があるため、来年度もこの時期の開催を考えている。来年度は実際に本格的な工事が稼働していると思うので、現場の視察を行い、意見をいただければと思っている。

【会長】この委員会は、来年度もこの時期に計画されているということである。今までは何もできていない段階で計画を見ながらいろいろ考えたが、来年度は、実際に工事が行われてモニタリング結果も出てくるため、もっと具体的な議論ができるのではないかと思う。

たくさんの意見をいただき、修正内容の確認は私に任せていただくことでお願いしたが、その他ご意見があれば、適宜事務局に、あるいは私を通じてでも結構なのでお寄せいただきたい。

事業者には、我々が申し上げた意見を踏まえて、環境保全に十分配慮しながら工事を進めていただきたい。

以上